

■ 教育目的

電気や磁気は、薬学の対象である薬物や生体高分子などを含む物質の構造と密接に関係していて、物質を構成する原子の状態や分子の形成に関与している。また、X線回折、NMR、MRIなどの機器の原理を理解する上でも必要不可欠な概念である。電磁気学は、電気と磁気に関わる現象を体系付けた学問である。また、電子のような微視的な世界の現象が古典物理学の方法では説明できないことから、原子や分子の世界の現象を解明する量子力学が必要となる。

本講義の目的は、薬と体内の生体高分子との相互作用に関連する物理概念である電磁気学と量子力学の基本原則を理解することである。

■ 学習到達目標

1. 電場や電流がつくる現象を知り電磁気学の基本法則について理解する。
2. 単位系、特に MKSA 単位系について理解する。
3. 化学で学んだ原子や分子の知識が微視的な世界の基本法則であるシュレーディンガー方程式より導かれたものであることを理解する。
4. 原子や分子の状態を表現する量子数と物理量の関係を理解する。

■ 準備学習 (予習・復習)

予習：高校の物理履修者は、習った範囲を事前に見直す。高校の物理未履修者は、高校レベルの参考書で基礎物理学の講義の該当部分に目を通す。

復習：講義ノートの見直し。理解できなかったところは質問するなどして次回の講義までに理解する。

■ 授業内容

本講義の前半は、静電場と定常電流がつくる静磁場を中心に電磁気学の基礎について学ぶ。後半は、量子力学について学び、化学で現象論的に学んだ原子や分子の知識の理解を深める。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1~3	電荷と電流	・ 電荷、静電気力 ・ 電場、電位 ・ 物質の電氣的性質、コンデンサー、電流と電気抵抗、直流通路	C1(1)-②-2
4~6	電流と磁場	・ 磁石による磁場、電流による磁場 ・ 電流が磁場から受ける力、磁場中の荷電粒子が受ける力とその運動 ・ 磁性体と磁束、電磁誘導、電磁波	C1(1)-③-1 C1(1)-③-3
7	前期量子論	古典物理学の破綻、原子模型とボーアの量子仮説 など	C1(1)-①~③
8~15	シュレーディンガー方程式	・ 量子力学の基本原則 (1) ・ 量子力学の基本原則 (2) ・ 箱の中の粒子 (1) ・ 箱の中の粒子 (2) ・ 水素類似原子 (1) ・ 水素類似原子 (2) ・ 水素類似原子 (3) ・ 電子のスピン、多電子原子	C1(1)-①~③

■ 授業分担者

A・B組：野口 保、C組：杉原 稔

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

A・B・C組 学期末試験の成績 (100%) で評価する。

■ 教科書

『薬学生のためのシリーズ-基礎物理学』 和田、溝口 他 (培風館)

■ 参考書

『スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ. 物質の物理的性質』日本薬学会編 (東京化学同人)

『電磁気学・原子 問題集』 柴田、勝山 他 著 (大日本図書)

■ その他

講義が理解できずについていけないと感じたら、物理学演習Ⅱに出席すること。